



「航空発祥の地・所沢」をおさらい

日本初の飛行場ができた!

「アイ沢って、どんなところ?」
①首都・東京に近い②交通の便が良い③落雷が少ない④地形が平坦…これらはみな、飛行場に適した立地条件に当てはまります。ライト兄弟が人類初の有人動力飛行に成功してから、わずか8年後の1911年、所沢に日本初の飛行場ができたのは、これらの理由からでした。

飛行場があったのは、現在の所沢航空記念公園などがある一帯。気象観測所や格納庫、操縦士や技術者を育成する学校などが建てられました。

日本の航空史が始まった所沢。所沢飛行場を舞台に、数々の記念すべき記録が刻まれていきました。

- ●徳川好敏大尉が操縦するフランス製の アンリ・ファルマン機が、日本で初め て、飛行場での飛行に成功
- ●国産飛行機による最初の飛行
- ●所沢飛行場で造られた飛行船「雄飛号」が、所沢から大阪までを初飛行

こうして、所沢は「**日本の航空発祥の** 地」と呼ばれるようになったのです。

▶ (写真上) 1918年 (大正7年) 頃の所沢飛行場 ▶ (写真下) 所沢航空記念公園内の沈床茶園 (所沢航空発祥記念館と茶室・彩翔亭の間の少しくぼんでいるエリア) は、かつての滑走路のなごり。表紙の下中央に、当時の滑走路と気象観測所の写真を掲載しています



この機会に、「航空発祥の地・所沢」の魅力と、

フランスとの絆を再確<mark>認し</mark>ましょう。

問商業観光課☎2998-9155





フランス航空教育団がやって来た

ようこそ、フランスの先生

フランスから飛行機を購入した日本は、航空技術を学ぶために協力を依頼。それに応えて、フランスから航空教育団が来日しました。時は1919年。今からちょうど100年前に当たります。

フォールさんって、誰だろう

日したフランス航空教育団を率いていたのが、フォール大佐です。 当時第1級の操縦士として知られていたフォール大佐は、優秀な教育者として、日本各地で航空技術の指導にあたり、所沢では飛行機製作などを教えました。

日本の航空技術を飛躍的に押し上げた フォール大佐の功績を称えて、所沢航空 記念公園内に胸像が設置されています。



▶所沢航空記念公園内 の茶室・彩翔亭の正面 玄関を出て左に下ると、 閑静なエリアにたたず むフォール大佐像に出 会えます



Salut! フランス大使館付き国防武官 海軍大佐 クリストフ・ピポロさん

このたびは、フランス航空教育団来日100周年記念行事のお手伝いをすることができ、本当にうれしく思っています。

当時彼らが築いた人と人との交流、技術産業の 交流は、今日では経済、科学、文化、安全保障など、 あらゆる分野での活発な交流へと引き継がれてい ます。

日仏の友情が、近代技術の伝承へと繋がり、日本の航空技術は飛躍的な進歩を遂げました。その 功績は大いに誇ってよいものでしょう。これから も、さまざまな分野で生まれるであろう、新たな 協力の成果が期待されるところです。

このように、フォール 大佐と航空教育団のメン バーたち、そして、後に 彼ら自身エキスパートと なる日本人の生徒たちの 物語は、日仏協力の生き 生きとした、かつ、尽ピ ーションの源なのです。

